

学校だより

# 希望理想使命

2019年(平成31年)1月11日発行

## 3

学期始業式 式辞

校長 河野仁彦

昨年は自然災害が多く、世の中・世相を表す漢字は、災いの一字でした。今年は災いのない年になればと願っていたら、なんと正月3日に熊本で再び震度6弱の地震が発生してしまいました。この日田市も震度3だったようです。今年も大きなニュースは地震からのスタートとなりましたが、日本という自然環境にあっては、何年だから平成最後の年だからとかは関係なく、地震などの自然災害は避けられないものなのでしょう。ただ、震度6弱という大きな揺れにもかかわらず、被害は幸いなことに少なかったようですが、その背景には、大きな地震を体験した熊本に住む

※ 2学期の行事に関する記事を2つ紹介します。

## ク

ラスマッチが12月19日(水)に行われました。教員を含めて全体をA、Bの2組に分け、「フリースロー」「ドッチビー」「ミニバレーボール」の3種目で対抗戦をしました。体育館は少し寒かったですが、準備運動と1種目目の「フリースロー」で体を温め、2種目目の「ドッチビー」からはエンジン全開で白熱した戦いが繰り広げられました。勝敗は3種目ともB組が勝利、賞品のお菓子をゲットし、一足早くクリスマスプレゼントをもらうことができました。



人たちの地震への備えがあったのではないかと思います。環境は変えられませんが、人々の地震への備えは確実に進歩していたのではないのでしょうか。天災は忘れたころにやってくるのですが、もっと大事なのは、天災はやってくるから備えておくことでしょう。私たちには、変えられないことと変えられることがあります。地震が起きるとい環境は変えられませんが、地震に備えるために自分は変えられるということです。地震などの自然災害にとどまらず、人間生きていればいろんな逆風が吹いて、思った通りうまくいわずに失敗したり病気を患ったりすることもあるでしょう。そうした環境は誰にでも訪れる避けられないものですが、それに対してどう対処するか、どう克服するか、どう利用するか。環境はなかなか変えられませんが、自分を変えられます。これまでの1年間・2年間・3年間を振り返って、変えるべきところは自分を変える、それが前に進むことです。ぜひ、今年は前を向いて前に進んでください。どんなことでもいいので、何か新しいことを始めるのも前に進むことです。変化を入れましょう。最後に、かつての南アフリカでのアパルトヘイトと戦ったネルソン・マンデラさんが残した一言を紹介します。「何事も達成するまでは不可能に見えるものである」では、皆さん、元氣よく、前を向いて前に進みましょう。



## 2

学期の終業日に表彰伝達が行われました。1人目は2年生の野元孝通さん。8月に開催された全国定通体育大会バドミントン競技に出場した選手の中から、敢闘賞として『石澤奨学会理事長賞』を授与されました。2人目は1年生の山下郁音さん。1年生ながら学校代表として、爽風館高校の体育館に集まった大勢の聴衆の前で発表した大分県定時制通信制生徒生活体験発表大会において『優良賞』を授与されました。2人とも、おめでとうございます！

終業式で述べられた校長先生の式辞の中で「人と人との繋がりを大切にすることを実践しようと、体育祭で生徒と一緒にダンスを踊った。生徒からの誘いに乗ったことで実に楽しい思い出ができた」という内容に触れられていました。9月の始業式で校長先生がお話された『人と人との繋がりを大切に』を、先生自身でやってみたということですね。

特別活動部の今年のテーマは『やってみよう!』。まだ何も実践していない人は、3学期に何かやってみませんか。

